



災害と障害



障害と災害

- 今回の胆振東部地震では、まさか北海道が？と思った方がいたように障がい当事者にとってはいろいろなことを気付くきっかけとなりました。
- そして、マスコミや地域連携の中でも、今まで気づかなかった福祉避難所のことや、用意しなければいけない災害用の準備にも目が行くようになっていきます。
- 新しい気づきが生まれると、そこには問題点もあることが浮き彫りになると今回改めて思いました

車椅子利用者が感じたこと

■ 停電時

電動ベッドが動かない

電動車いすのバッテリーが切れたら充電できない

避難と言われてもエレベーターが止まると、外へ出ることもできない

呼吸器、吸引器の予備バッテリーの心配

水が止まってしまった

交通機関、信号停電で、ヘルパーが来れない

■ 停電復旧後

食材がダメになっても買い物できない

飲料水すら家がない

視覚障害者が感じたこと

■ 停電時

見えないことには慣れているので暗闇は大丈夫

普段からラジオ常備なので情報は取れたが携帯電話がつながらず不安だった

家の周りや家のそばの外の状況がわからない恐怖のほうが大きかった

揺れが大きいと何が起きているのかがわからなく腰を抜かしてしまった。

水が出ないことが何故なのかわからなかった

■ 停電復旧後


外の道路状況が変わっているところもあり、怖かった。

買い物に行っても物流ストップで買うことができなかった。



避難所の利用について

- 札幌市は「混乱を防ぐため」との理由で福祉避難所の公開をしていない。
- 避難所に避難した障害者は避難所内の別室を用意されているところもあるが、そこから普通の避難所生活が困難と思われる人を、福祉避難所に振り分けるシステムになっている。
- そこで問題になったのが...
 - そもそも避難所に避難できない障害者も多い
 - せっかくたどり着いてもそこから再振り分けされるのは大変
 - 福祉避難所の存在さえも知らない人が多い...ということ
- 避難所で一番困るのは、トイレと居場所（車椅子利用者は避難所内移動も場所をとるので）、寝る場所（ベッドの代わりになるものがあるか）の大きく分けて三つある



障害者が必要な準備

- 電力を確保できる準備（生命維持のため、外部と連絡を取るため）
- 数日の飲料水や食料
- 簡易トイレ
- 紙おむつやパット
- 電池式ラジオ
- 電池式の暖房器具や照明器具
- 冬は暖をとれるもの、夏は熱中症にならないもの
- その他障害の状況に応じて薬や緊急搬送先となるかかりつけ医などがわかるメモ

避難所 自衛隊設営のお風呂

- 簡易テントでの設営なので中はきつと狭いと思ったら...



意外と知られていない情報



避難所のお風呂（男湯、女湯、家族風呂）

- 中は広々としていた。



写真のお風呂はバリアフリーの湯。浴槽はウレタン素材。縁を内側に押しと簡単に倒れる（お湯は流れるけれど...）ので、またぐことができない人にも使いやすいようにできている。

介助者や家族と入れるように、家族風呂として貸し切りでの利用に配慮されている。

避難所のお風呂（脱衣所）

- 女湯には、手前にアメニティスペースがあり、ドライヤーも用意されていたり、赤ちゃんとお母さんのためのスペースもあります。快適な室温が保たれているそうです。



- 
- 今回の災害は大きく人々の心を揺さぶりました。

意外と障害者のほうが、諦め慣れているというか、なるようになれと堂々としていたようにも見えます。

そんなに寒くない時期で本当に良かった...

そんな声が一番多かったように思います。

もし雪道だったら事故が多発していたかもしれない信号のない交通。
北海道だからこそその準備は、行政だけではなく個人個人もこの機会に見直しが必要かもしれません。